宮崎市総合発達支援センター

【 診 療 部 】

重点目標・施策に対する実績

ア【受診時期の適正化】

（ア）医師の勤務体制変更と専門医取得研修のために診察枠が減少。初診待機期間は約５～６カ月となりました。

（イ）受診前の家族に対する相談支援を公認心理師、言語聴覚士が行いました。

イ【関係機関との連携強化と各種ニーズに応じた事業の推進】

（ア）宮崎市保健所のすこやかひろば担当職員との運営会議、健診検討会への参加、公認心理師、理学療法士による学校支援、作業療法士や公認心理師を支援者向け講演会に講師として派遣するなど、地域との連携強化を図りました。

（イ）５歳児健診事業の開始に向け、健診及び事後相談に関する協議を宮崎市と行いました。

ウ【地域への情報発信】

ホームページで専門職による分かりやすい発達支援の情報を発信するため「ST だより」「OT だより」にご家族等に役立つコンテンツを掲載しました。

○相談・調整業務

a 来所・電話等内訳　（年間累計件数）

項　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
来所	387	374	358
電話	632	583	626
その他	0	0	0
合計	1,019	957	984

b 内容内訳　（年間累計件数）

項　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
診療予約	353	362	373
初診時面接	312	326	291
医療・福祉支援等	177	118	177
他機関・施設	93	88	74
学校生活	32	18	6
家庭生活	22	14	13

地域生活支援	31	31	37
その他	0	0	93
合計	1,019	957	※1,064

※令和６年度より内容別に複数計上

c 経路内訳　（年間累計件数）

項目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
医療機関	169	131	144
保健所	261	293	280
児童相談所	3	3	7
学校（教育機関含む）	37	36	76
保育所・幼稚園等	62	109	112
福祉施設	116	94	84
テレビ・新聞 インターネット等	105	76	64
知人・親の会	17	24	18
利用者	246	182	180
その他	3	9	19
合計	1,019	957	984

担当業務別の重点施策の実施状況

〖 外来 〗

ア【特殊外来における課題解決】

「精神科」･･･診察時間の調整等を行い必要な診察枠を確保しました。

「整形外科」･･･予約枠の調整や職員間の連携により、待機期間の短縮や診察時間の効率化を図りました。

「耳鼻咽喉科」･･･一般の医療機関に受診が困難な方(障がい者施設の方など)の診察・処置を行いました。

「眼科」･･･視能訓練欄に記載。

イ【診療の効率化】

電子カルテを適切に運用するためのマニュアル作成に取り組みました。

ウ【新たな療法への取り組み】

肢体不自由児者に対して、生活環境に合わせた移動の自立を実現するため、最新の移動支援機器に関する説明と試乗会を実施しました。

（年間累計人数）

項　　目		令和４年度	令和５年度	令和６年度
発達外来	初診	307	319	282
	再診	10,353	10,642	10,462
整形外科	初診	0	0	0
	再診	264	254	258
精神科	初診	0	0	0
	再診	122	106	107
耳鼻咽喉科	初診	0	0	0
	再診	16	33	62
耳鼻咽喉科（難聴）	初診	28	59	18
	再診	188	195	244
眼科	初診	2	0	0
	再診	312	272	265
	初診	337	393	300
	再診	11,255	11,502	11,398
合　　計		11,592	11,895	11,698

〖視能訓練〗

ア【眼科外来での対応の検討】

今年度は転院･終了が16名でした。学齢期の患者の地域への紹介を行い待機期間も1～2か月へ短縮し診察時間に余裕を持たせることができました。また、検査機器の更新も行い、検査の幅を広げることができました。

イ【検査技術、知識の向上】

小児眼科や神経眼科に関すること、発達障がい児への検査の対応方法、3歳6か月児健診での視覚検査についての研修に参加し、知識を深めることができました。

ウ【他の機関と連携強化】

（ア）　宮崎大学医学部付属病院から経過観察依頼があった患者に、視覚補助具などの紹介や学習におけるアドバイスを行いました。

（イ）　宮崎大学医学部附属病院と併行で通院している方の情報提供や検査の練習を行い、連携を図りました。

（ウ）　宮崎市保健所の3歳6か月児健診に、視能訓練士を派遣しました。

（エ）　他医療機関へ診療情報提供書を記載する際、特性や検査方法、対応の工夫を記載し、発達障がいの啓発に努めました。

（年間累計人数）

項　　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
評　　価	63	54	62
訓　　練	487	468	440
合　　計	550	522	502

〖理学療法〗

ア【職員の資質と支援技術の向上】

（ア）　宮崎県理学療法士会と協働で研修会や連携会議を行い、専門職間での連携強化を図りました。

（イ）　施設外研修への参加（１３回）や、各自で取得した認定資格の更新など自己研鑽に努め、支援技術の向上を図りました。

イ【支援センター内および関係機関との連携】

（ア）　児童発達支援センターすぴか及び指定生活介護事業所宙での姿勢運動支援充実のため、補装具の調整や備品の共有、ポジショニングシート作成への助言を実施しました。

（イ）　地域生活支援部の要請に応じて訪問指導や住宅改修に関する相談支援を実施しました。

（ウ）　保健、医療、福祉、教育機関と連携し、学童期の事例に対する支援の充実を図りました（訓練場面での情報共有、電話やメール等による情報共有、支援会議への参加、学校主催のケース会議への参加）。

ウ【医療的ケア児等への支援に関する取り組み】

（ア）宮崎県医療的ケア児等支援者養成研修」の講師として「日常生活支援（リハビリテーションと遊び）』をテーマに講義を担当しました。

（イ）「宮崎県医療的ケア児等コーディネーター養成研修」の講師として『医療的ケアが必要なこどもたちの発達支援について』をテーマに講義を担当しました。

（ウ）医療的ケア児等支援事業へ協力し、関係機関との情報共有や訪問による相談支援を実施しました。

エ【補装具の使用貸借事業について】

事業運用を見直し、新たな実施要領の作成に取り組みました。

（年間累計人数）

項　　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
訓　　練 （評価含む）	2,639	2,621	2,399

〖作業療法〗

ア【ニーズに応じた作業療法支援体制の構築】

（ア）ニーズに対応した支援を計画し、目的別生活支援を行いました。

（イ）グループ支援や外部での支援について、綿密な打ち合わせや調整を作業療法士職員間で行うと共に、支援に関するノウハウ共有を行いました。

（ウ）各職員が資質向上のため、学会、研修会へ参加しました。

イ【支援センター内および地域の関係機関との連携強化】

（ア）児童発達支援センターすぴか及び指定生活介護事業所宙利用者に対し、各部門での支援に加え、作業療法室を使用した活動を両部署職員と共に行い、利用者への支援と職員間の情報伝達を行いました。また、宙利用者に対し、多職種で検討を重ね「ポジショニングシート」の作成に繋げました。

（イ）4か所の公立保育所で「遊びの研修」を行い保育士との連携強化に努めました。

（ウ）宮崎市保健所のすこやかひろばで専門的指導や跡江保育所での親子通園で保護者勉強会及び保育所職員への研修を行いました。また、みなみのかぜ支援学校教職員の専門性向上研修会、地域保健課保健師研修会で講話を行いました。

ウ【作業療法ノウハウの対外的な情報発信】

ホームページに、家庭でも実践できる情報を掲載したコラム「OTだより」を掲載しました。

（年間累計人数）

項　　目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
訓　　練 （評価含む）	1,811	1,964	1,850

〖言語聴覚療法〗

ア【受診前の家族に対する新たな相談支援の検討】

（ア）言語面（吃音など）を主訴とする初診前の相談支援を行いました。

（イ）各スタッフが相談支援の資質向上のため、学会・研修会へ22件程参加しました。また、部署内での研修会を繁忙期の11月まで定期的に行いました。

イ【関係機関との連携強化と各種ニーズに応じた事業の推進】

（ア）指定生活介護事業所宙での職員の食事に関する疑問の解消や解除方法、食形態の見直しなど直接的な支援を満実させる目的で、利用者の食形態や食事介助方法の協議検討を実施しました。

（イ）宮崎市内小児言語聴覚士で“就学後のST支援”のテーマ意見交換会を実施し、情報共有と地域のニーズに合った支援のあり方を検討し連携強化を図りました。

（ウ）宮崎市保健所のちびっこランド８回、すこやかひろば18回、職員を派遣しました。

（エ）難聴児への支援に関しては、宮崎大学医学部付属病院難聴支援センター主催の難聴児支援会議や宮崎県立都城さくら聴覚支援学校主催の研修に参加し聴覚支援学校の先生方とケース情報の共有の機会を設けました。

ウ【地域への情報発信】

ホームページ上でことばの育ちが気になる保護者の向けにことばの発達に　関する情報発信を行いました。

（年間累計人数）

項　　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
訓　　練 （評価含む）	1,736	1,743	1,643

〖心理療法〗

ア【受診前の相談支援の拡充】

初診待機中の相談支援として「受診前の家族面談（こあら）」を外来スタッフや地域生活支援部と連携しながら実施しました。（宮崎市発達障がい児等早期相談強化支援事業）

イ【センター内外の機関との連携を強化する】

（ア）宮崎市と連携し、宮崎市保健所でのすこやかひろばへ職員を派遣し、専門的な助言を行いました。また、母子地域ケア会議で、発達支援に関する講義を行いました。

（イ）宮崎県立看護大学の大学院生を対象に、地域の母子ケアシステムに関する講義を行いました。

（ウ）教育機関との連携として、宮崎市就学相談委員会への出席、上級特別支援教育コーディネーター養成研修の講義、学校支援アドバイザー派遣事業への講師派遣を行いました。

（エ）学童期への間接支援として、コロナ禍前に実施していた「医療と教育の合同カンファレンス」を４年ぶりに主催し、実践的なスキルの共有を図りました。

（オ）児童発達支援センター『すぴか』職員とのカンファレンスを行うとともに、専門的支援を開始し、心理的な視点を持った支援を行いました。

ウ【職員の資質向上と心理支援体制の強化】

（ア）心理職研修会へ参加し、支援スキルの向上と近接領域の心理士との連携を図りました。

（イ）利用者の細かなニーズに応じることを目的に、保護者向けの勉強会「テーマ別講座（就労、不安タイプの子育て、メディア）」を実施しました。

また、新しい取り組みとして、本人への心理教育を目的としたグループ講座を行いました。

（ウ）改定された新しい検査法（田中ビネーⅥ）を導入しました。また、ストレスに対する新しい心理援助技術を用いたセッションを行いました。

（エ）心理室の観察用カメラをデジタル化し、検査の様子をリアルタイムで医師と共有できるようにしました。

（年間累計人数）

項　　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
評　　価	1,325	1,196	763
訓　　練	1,142	1,283	1,678
合　　計	2,467	2,479	2,441

【　障がい児通所部　】

〖児童発達支援センター すぴか〗

重点目標・施策に対する実績

ア【家庭と連携した療育体制づくり】

（ア）個別指導計画とその見直し（6か月ごと）について実態に即した計画作成を行いました。また、年3回の個別面談、必要に応じて保護者相談を行いました。

（イ）親子保育（毎週金曜日）及び各種行事、保護者学習会においては、5月「就学ガイダンス」、6月以降「支援学校見学会、地域小学校支援級見学引率」、7月「卒園児保護者の話を聞く会」「防災講演（父母の会主催）」を行いました。

（ウ）児童発達支援事業所評価保護者アンケートを行い、「支援満足度」については以下のような結果となりました。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業所の支援満足度	96%	100%	94%

（エ）親子で参加した年間行事を以下のとおり行いました。

月	行 事 名	内　　容	人 数
5	春の親子遠足	親子保育（フェニックス自然動物園）	68
7	夏祭り	親子保育、兄弟児支援 夏ならではのあそび場所の提供	110
10	うんどう会	かけっこやリズムなどを発表。 （宮崎市立檍北小学校体育館）	150
12	おたのしみ会	見ること、聞くことを中心に子ども、保護者参加型で楽しめる会。	82
3	お別れ遠足	親子遠足（フローランテ宮崎）	89
	卒園式	卒園児：20人	84

イ【診療部や教育機関と連携した療育】

（ア）診療部職員が定期的に保育や食事場面に参加し、支援方法（発達支援・家庭支援）について、以下のとおり協議・連携を行いました。

指導の形態	頻度	連携したセラピスト
グループ別専門的支援	各グループ 月５回以上	理学療法士、作業療法士、 言語聴覚士、認定心理士
摂食指導	随時	言語聴覚士

（イ）作業療法士と連携し、作業療法訓練室での活動を行いました。

（ウ）就学を迎える児童を対象に各支援学校等への引継ぎを行いました。

（みやざき中央・みなみのかぜ・清武せいりゅう・赤江まつばら・本郷小学校）

ウ【安全・危機管理に関すること】

（ア）遊具や保育環境の点検を毎月行い、危険個所の修繕を行いました。

（イ）毎月、ヒヤリハット・事故報告書を作成し、事故の発生要因の分析を行いました。軽微な事故も報告対象とし、重大事故の発生予防に努めました。

（ウ）支援センター内の各部門と連携し防災委員会の充実を図りました。

（エ）月１回、緊急時想定訓練を行いました。（地震、津波、火災想定、アレルギー、バス訓練【事故後、救急車要請訓練】、不審者対応、リスクマネジメント・気管切開など）

（オ）チェックリストを使いバス送迎時の安全管理の徹底や、送迎バス車内に置き去り防止など、安全管理体制の整備を行いました。

エ【地域資源（場所・他施設）との関係促進】

（ア）園外保育で公共施設等を利用する機会を設けました。

（イ）勤労感謝の日にちなみ地域の関係者と連携し、ポイントカードとお菓子を交換。家族の方にプレゼントして感謝の気持ちを伝える体験をしました。

（ウ）近くの児童館での活動体験を行いました。

（エ）地域の公立保育所と連携して、交流保育を行いました。

オ【職員のスキルアップに関すること】

（ア）内部研修として、発達、医療、食事、障がいの理解などについて学習会や研修報告会を行いました。（10月には外部講師を招き保育の在り方研修、3月にセンター長による、将来豊かな社会生活を送るための発達支援についての研修）

（イ）1月に障がい者虐待防止・権利擁護について職員研修を行いました。

カ【地域資源（研修、実習）との関係促進】

（ア）おおぞらセミナーを開催し、児童発達支援事業所や支援学校等に対して障がいを持つ子どもの理解に関する研修を行いました。

（イ）年間を通して実習生の受け入れを行いました。宮崎県主催の保育体験研修や宮崎市公立保育所医療的ケア保育体験研修の受入れを行いました。

○ グループ編成［令和７年３月（卒園及び転園前の在籍児数）］　（単位 ： 人）

クラス名	人　数	職員体制
たいよう	9	5
にじ	9	4
ぎんが	9	6
ほし	8	5
かぜ	5	4
合　計	40	24

＊他、主任２名　看護師３名　給食保育ヘルパー2名

【　障がい者通所部　】

〖指定生活介護事業 宙(そら)〗

重点目標・施策に対する実績

ア【利用者の生活の質の向上】

（ア）令和６年度より受給者証の更新月に合わせた個別支援計画の作成を行いました。アセスメントや保護者対象の個別面談等(Zoom面談希望者含む)を行い、個々の利用者ニーズを把握し、相談支援の場を設け個々のニーズに沿った支援を提供するよう努めました。

（イ）生活の中に楽しみが持てるよう、季節を通じた様々な日中活動を提供しました。制作活動や楽器演奏の際、利用者の実態に応じて目と手の協応が難しい方には鏡を使用して手元が見られるようにしたり、手指を自発的に動かせる方には自在棒や譜面台を活用したりして、素材や道具を工夫しながら支援しました。

（ウ）希望者に対して、科学技術館、県立美術館、イオンモール宮崎、フローランテ等、公共施設や商業施設への外出の機会を提供しました。仲間や職員と普段の生活とは違う空間を体験することで、いつもとは違う表情がみられました。
また社会生活の幅が広がる機会にもなりました。

（エ）オカリナコンサートとしてボランティアを受け入れ、オカリナの生演奏を鑑賞し、本格的なオカリナの音色に触れる機会を設けました。また、今年度はフラダンスのボランティアも新たに受け入れ、華やかな衣装で優雅に踊る姿を興味津々に鑑賞されていました。

イ【職員の専門性向上の充実】

（ア）重度の障がい者への支援に対応できるよう、職員指導や職場内研修を毎月行い、職員の意識向上や資質向上を図りました。また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防に関する職場内研修を行い、感染防止対策に取り組みました。

（イ）診療部の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士から支援に関する指導や助言を受け、職員の技術向上を図りながら統一したケアを行いました。また、普段の活動においても、トランポリンやオーシャンスイングの活動に専門職が入ることで活動の幅が広がり、利用者も表情良く楽な姿勢で活動を楽しむことができました。

ウ【医療的ケアの充実】

（ア）利用者の健康状態を常に把握し、利用者に応じた適切な処置や医療的ケアを行い、健康管理に努めました。

（イ）新型コロナウイルスやインフルエンザ感染症拡大防止のため、利用者及び職員の体調管理（体温、必要時は抗原検査の実施）、室内換気及び消毒の徹底に努めました。また、看護師による感染対策の勉強会を行いました。

エ【適正な運営】

虐待防止、身体拘束の適正化、BCP、感染症予防・蔓延防止対策の各委員会を開催し、その後職員へ向けての研修を毎月行いました。嘱託職員についてはZoomでの参加や、別日に設定することで全員が研修に参加できるよう配慮しました。

○ 主な年間行事

月	行 事 名	内　　容	人 数
4～3	音楽会(年４回)	・季節ごとの音楽会を計画、四季折々の歌や音楽、楽器演奏を行う	291
5	さつきウィーク	・利用者の作品展示	89
6	フラダンス	・ボランティアによるフラダンスを実施 ※保護者の参加あり	19
7	七夕 縁日	・短冊の飾り付け ・縁日ならではの雰囲気を楽しむ （スイカ割り、ヨーヨー釣り、かき氷等） ※飲食は保護者了承のうえ実施	89
10	スポーツウィーク	一週間を通し、様々なスポーツを体感する(ゴルフ、ボッチャなど)	82
11	オカリナコンサート	・ボランティアによるオカリナコンサートを実施 ※保護者の参加あり	17
12	おたのしみウィーク、もちつき	・今年一年を振り返りながら、出し物や楽器演奏を観て楽しむ ・昔ながらのもちつきを見て、餅に触れる	84
1	新春ウィーク	※予定していたが職員調整が難し為実施できず。	―
2	節分 調理活動	・豆まき ・お菓子（チョコカップケーキ）作り	91
3	ひなまつり	・お茶会、絵合わせカードや歌、絵本を楽しむ	14

【　地域生活支援部　】

〖そうだんサポートセンター おおぞら〗

〖宮崎市そうだんサポートセンター すぴか〗

重点目標・施策に対する実績

ア【地域の相談支援の中核的な役割】

宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターとして、障がい種別に関係なく、当事者、保護者、支援者等からの総合的な相談に応じました。

イ【専門性の高い（複雑困難な）事例への対応】

（ア）　宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターとして、養育困難や生活困窮、虐待等の複雑困難な事例や高い専門性を必要とする事例への対応を行いました。

（イ）　障がい児相談支援を推進し、児童が健やかに育つ環境が整うよう関係機関、事業所及び行政との連携に努めました。

ウ【計画書作成担当事業所の紹介・案内】

利用者や市・関係事業所からの相談に応じ、サービス等利用計画書や障がい児支援利用計画書を作成する指定相談支援事業所の紹介・案内を行いました。

エ【他の指定相談支援事業所への助言】

（ア）宮崎市の相談支援体制の強化を図る取り組みとして、他の指定相談支援事業所に対して専門的な助言等を行いました。

（イ）他の指定相談支援事業所が抱える困難事例等に同行するなど、後方支援を行いました。

オ【研修の企画・開催】

宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターの役割である「地域の相談支援体制の強化」を図るため、指定相談支援事業所や各種サービス提供事業所を対象に研修を行い、地域の人材育成に努めました。

カ【療育に関する相談支援】

（ア）家庭や地域の施設を訪問し、障がい児（発達の気になる子ども）やその家族に対する療育相談を行う巡回相談事業で、子育て支援センターの巡回相談を増やし支援強化を図りました。
また、障がい児（発達の気になる子ども）が通所する施設を訪問し、職員に対する助言等を行いました。

（イ）ＧＳＶ（グループスーパービジョン）の手法を取り入れた施設支援を行うことで、保育所、幼稚園等の発達支援に係る技術向上を図りました。

キ【宮崎市自立支援協議会との連携強化】

（ア）宮崎市自立支援協議会の「子ども支援部会」「医療的ケア支援部会」の事務局を担うとともに、その他部会の会議にも積極的に参加し、障がい児者を取り巻く課題を関係機関と共有するために、各部会の運営を支援しました。

（イ）宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターの業務を各部会に周知し、地域の障がい者等の支援体制を充実するため、関係団体等との協力体制の構築に努めました。

ク【医療的ケア児等の相談支援体制の強化】

（ア）宮崎市等の医療的ケア児及びその家族を地域で支えられるよう、他の宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターとの連携を図りながら、福祉や教育、医療にまたがる相談支援体制の構築に努め、他の指定相談支援事業所の相談支援専門員への助言や情報提供を目的とした事例検討会及び研修会を企画開催しました。

（イ）宮崎県医療的ケア児支援センターとの連携を強化し、医療機関から退院する際の早期相談支援体制構築のための検討を行いました。

ケ【関係機関等との連携強化】

（ア）各種事業を円滑に進めていくために、市町村福祉担当課、教育委員会、児童相談所、医療機関など、各関係機関及び事業所との連携強化を図りました。

（イ）宮崎市や他の宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターと連携・協働し、指定相談支援事業所に対する事業所訪問やモニタリング検証の実施に向けた検討等を行い、相談支援体制のより一層の強化に努めました。

（ウ）「宮崎市民生委員児童委員協議会」、「中学校区特別支援教育連絡会」などに出席し、地域の教育、福祉と家庭の連携との連携を推進しました。

（エ）宮崎県障がい者相談支援事業連絡協議会（ＭＳＲ）が主催する会議や研修会等の運営に協力し、障がい児者の相談支援体制の強化に努めました。

コ【宮崎市総合発達支援センター診療部及び通所部との連携強化】

（ア）増加する子どもの発達に関する相談に対応するため、幅広い知識と専門スキルを持った診療部・児童発達支援センター『すぴか』による地域事業所の育成・指導のコーディネート業務等を行いました。

（イ）発達障がい等の診断を受ける前の期間に障がい児やその家族の不安解消を図るため、診療部と連携し、早期相談事業を行いました。

○　宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターにおける相談支援、療育等支援、巡回支援等の実績　（年間件数）

項　　目		令和４年度	令和５年度	令和６年度
障がい者相談支援事業		2,418	2,581	2,693
療育等支援事業	訪問療育	11	6	3
	外来療育	138	24	30
	施設支援	10	33	21
巡回支援専門員整備事業		254	169	243
合　　計		2,831	3,683	2,993

○　サービス等利用計画書及び障がい児支援利用計画書の作成件数　（年間件数）

項　　目		令和４年度	令和５年度	令和６年度
サービス等利用計画書	新規・更新・変更	81	57	47
	モニタリング	37	28	11
障がい児支援利用計画書	新規・更新・変更	205	190	157
	モニタリング	101	87	44
合　　計		513	362	259

○　障がい児支援利用計画書の作成件数

（宮崎市そうだんサポートセンターすぴか）　　（年間件数）

項　　目		令和４年度	令和５年度	令和６年度
障がい児支援利用計画書	新規・更新・変更	50	62	69
	モニタリング	39	54	40
合　　計		89	116	109